

# 登山・登攀の記録

## 東北 八甲田山スキーツアー

日時:1988年3月14日~3月21日

メンバー:CL 高岸且、松浦尚、下西勲、他一名

**概要:**三浦敬三氏が北大在学中の大正時代(1915年頃)に辿った八甲田山から奥入瀬溪谷の逆ルートを進む計画である。当初は十和田湖から八甲田山全山の縦走をめざしたが、体調不良やルートファインディングの困難さから一部をカットすることとなった。それでも、山スキーを愛するものがあこがれるモンスターの樹氷原を縫って滑降するダイナミックなスキーツアーを謳歌することができた。

### 記録

3月14日 晴

JR 大館 - 十和田南一子ノ口(12:10) - 銚子大滝(13:00/13:15) - 雲井ノ滝(15:30)

前日に京都から特急「白鳥」12時間。大館駅でテント泊。朝から移動し、十和田南駅からタクシーで子ノ口に向かう。ここからスキーを履いて奥入瀬溪谷の遊歩道を快適に下る。雲井ノ滝の直下をサイト地とする。

3月15日 曇のち雪

サイト地(6:45) - 石ヶ戸(7:45/8:00) - 黄瀬川(9:10/9:40) - 林道最後の橋 - サイト(15:20)

朝からスキーを担いで道路を歩く。雪が少なく滑る事ができない。黄瀬川沿いで出会ったおじさんから「植林地を歩いていくと乗鞍岳には入り易い」という情報を得る。その情報を元に林道を進むが林道途中でホワイトアウトし手頃な所でサイトとする。

3月16日 雪のち晴

酒巻氏が発熱し大事をとって沈殿とする。

3月17日 快晴

TS(6:35) - 乗鞍・赤倉岳のコル(10:00) - 赤倉岳(10:25) - 乗鞍岳(12:25/13:00) - サイト(14:20/14:50) - 猿倉岳(15:15/15:35) - サイト(15:50)

TSから3ピッチでコルまで上がる。ここにザックをデポし赤倉岳をアタック。コルにもどり横岳と逆川岳をカットして、猿倉岳をアタックする。乗鞍岳ピークはこんもりと氷雪をかぶったアオモリドマツのモンスターが群をなしている。モンスターの群の中を乗鞍岳の麓まで一気に滑降し、つぎに猿倉

岳をアタックする。



XxXXXXXXXXXX



XXXXXXXXXXXXXXXX

3月18日 曇のち雪

TS(6:15) - 駒ヶ峰(6:50) - 楡ヶ峰下(7:30/8:00) - 楡ヶ峰山頂(8:40/8:50) - TS(10:20/11:50) - 笠松峠(13:30/14:00) - 酸ヶ湯温泉(15:30)

TSをでて楡ヶ峰直下にスキーをデポして楡ヶ峰をアタックする。ガスに追いつけられながらTSにたどり着いた。荷物をまとめ笠松峠へと急いだ。峠からは酸ヶ湯温泉へと滑り、温泉に浸かって疲れを癒した。この温泉は室内の混浴の大浴場であり、

# 登山・登攀の記録

男女の境は両端の棒である。



XXXXXXXXXXXXXXXXXX

3月19日 快晴 のち雪、霧

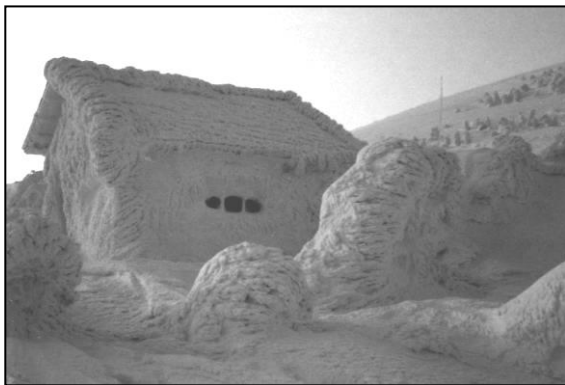
TS(8:00)－八甲田山登山口(8:15)－仙人岱ヒュッテ(9:45)

登山口を出発すると同時にガスが出始める。2ピッチ目でホワイトアウトとなり、数m毎の竹竿を頼りに登高すると仙人岱ヒュッテにたどり着いた。一面ホワイトアウトのため時間待ちでチャンスを伺うが、一日過ぎてしまう。

3月20日 霧

仙人岱ヒュッテ(10:40)－大岳ヒュッテ(11:20)

4:00に起床し、出発だと外に出ると完全にホワイトアウトしている。10時過ぎにガスが晴れたので行動を開始するが、すぐに濃いガスが一面を覆う。前日と同様に竹竿を頼りに前進した。大岳ヒュッテはまるでお菓子の家のように真っ白い氷でとざされ、中は大変寒かった。霧が氷に昇華してゆっくり降りてくるダイヤモンドダストが見られた。マイナス20度くらいか。



XXXXXXXXXXXXXXXXXX

3月21日 霧 のち快晴

大岳ヒュッテ(6:35)－高田大岳(8:00)－八甲田大岳(10:35/11:15)－大岳ヒュッテ(11:30/12:30)－酸ヶ湯温泉(13:30)

松浦氏が発熱のため高岸、下西、酒巻の3人で大岳をアタックすることになる。高田大岳への小岳を巻いていき、八甲田大岳へ行く途中に小岳のピークを通過した。八甲田大岳からの下りで3人はアイスバーンでエッジをとられ、30から40m滑落してしまう。大岳ヒュッテからは松浦氏の大事を取って酸ヶ湯温泉に降りた。

(記/高岸)



XXXXXXXXXXXXXXXXXX



XXXXXXXXXXXXXXXXXX